

NSG グループ

2026年3月期 第3四半期決算報告

(2025年4月1日～ 2025年12月31日)

日本板硝子株式会社
2026年2月6日

日本板硝子株式会社
2026年3月期 第3四半期決算報告

日時： 2026年2月6日（金）
発表者： 執行役常務 CFO 相浦 宏
開催形式： Zoomウェビナー

目次



1. 2026年3月期 第3四半期決算概要
2. 2026年3月期 業績予想
3. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の進捗状況
4. まとめ

CFOの相浦です。

本日はご多忙の中、弊社決算説明会にご参加頂き、誠に有難うございます。
また常日頃から弊社事業にご理解とご支援を賜り、あらためて御礼申し上げます。

本日の説明内容ですが、
始めに2026年3月期第3四半期決算概要および2026年3月期の業績予想について
ご説明した後、中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」の財務目標の
進捗状況についてご説明いたします。

1. 2026年3月期 第3四半期決算概要

連結損益計算書



欧州建築用ガラス事業の改善により、売上高および営業利益が大幅増加。
引き続き利益改善のためのあらゆる施策を推進

| (億円) | 10-12月期 (3か月) | | | 4-12月期 累計 (9か月) | | |
|---------------------------|---------------|--------------|--------|-----------------|--------------|--------|
| | 2025年 3月期 | 2026年 3月期 | 差異 | 2025年 3月期 | 2026年 3月期 | 差異 |
| 売上高 | 2,075 | 2,198 | 123 | 6,300 | 6,406 | 106 |
| 営業利益 | 6 | 65 | 59 | 108 | 185 | 77 |
| 営業利益率 | 0.3% | 3.0% | +2.7pt | 1.7% | 2.9% | +1.2pt |
| 個別開示項目 (純額) | △ 25 | △ 1 | 23 | △ 25 | △ 7 | 18 |
| 個別開示項目後営業利益 | △ 19 | 64 | 83 | 83 | 178 | 95 |
| 金融費用 (純額) | △ 56 | △ 75 | △ 18 | △ 182 | △ 210 | △ 28 |
| 持分法による投資利益 | 12 | 15 | 3 | 37 | 44 | 7 |
| 持分法投資に関する その他の利益 (△損失) | - | △ 0 | △ 0 | - | △ 4 | △ 4 |
| 税引前利益 (△損失) | △ 64 | 4 | 68 | △ 62 | 8 | 70 |
| 当期利益 (△損失) | △ 59 | △ 7 | 52 | △ 93 | △ 41 | 52 |
| 純利益 (△損失)* | △ 62 | △ 9 | 53 | △ 101 | △ 51 | 49 |
| EBITDA | 130 | 201 | 70 | 481 | 582 | 101 |

2026年2月6日 | 2026年3月期 第3四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

売上高・営業利益

売上高は欧米の自動車用ガラス事業により増加。
営業利益は主に欧州の建築用ガラス事業で改善が見られたため大幅に増加

【売上高および営業利益 (事業別) : 前年同期比】

| (億円) | 売上高 | 営業利益 |
|--------|-------|------|
| 建築用 | △ 14 | +103 |
| 自動車用 | + 150 | + 9 |
| 高機能 | △ 32 | △ 10 |
| その他 | + 2 | △ 25 |
| グループ全体 | + 106 | + 77 |

まず、4ページの連結損益計算書です。

表の左側が当第3四半期3か月の業績、右側が9か月累計の業績です。

当第3四半期の売上高は、2,198億円と、前年同期比123億円の増収となりました。
営業利益は65億円と、前年同期から大幅に回復しています。
9か月累計の売上高は、6,406億円と前年同期比106億円の増収となり、
また営業利益は185億円と同じく77億円の増益となりました。
業績は、欧州の需要環境悪化を受け大幅に低下した前年度の状況からは
回復基調にあります。

営業利益の増減の事業別の内訳は、右側の表にあります通り、
建築用ガラス事業が、欧州の販売価格上昇により大幅に改善、
自動車用ガラス事業では、補修用が改善し新車用の不調をカバー、
一方、高機能ガラス事業は一部製品の販売のズレもあり、減益となっています。

営業利益より下の項目を見て頂くと、個別開示項目は7億円の費用でした。
これには、第1四半期におけるベトナムの建築用ガラス製造子会社の当社持分を
譲渡したことに伴う利益と第2四半期における英国債売却に伴う損失が
主要なものとなっています。

金融費用は210億円となり、前年同期の182億円から28億円増加しました。

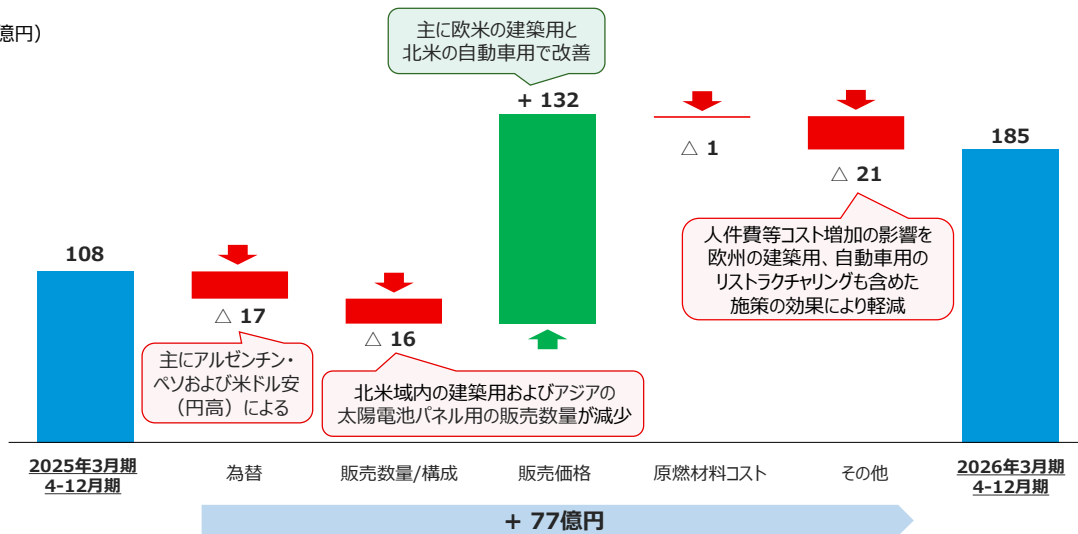
持分法適用会社については、
持分法による投資利益は44億円と前年同期から7億円増加しました。
これはブラジルにおける建築用ガラス事業の持分法適用会社であるセブラセ社の利益が改善したためです。

以上から、法人所得税を差し引いた当期損失は41億円、
少数株主持分を差し引いた純損失は51億円となりました。

営業利益差異分析 (4-12月期累計)

主に欧米の建築用ガラス事業および北米の自動車用ガラス事業で、販売価格が改善。
人件費等コスト増加の影響を欧州のフロート窯停止も含めたコスト改善により軽減

(億円)



2026年2月6日 | 2026年3月期 第3四半期決算報告

5

5ページは、4-12月期（9か月累計）の営業利益差異分析です。
前年度累計の営業利益108億円から、当年度累計の営業利益185億円へと
77億円の増益となりましたが、その構成要素を示しています。

「為替」による影響は、17億円のマイナスでした。
これは当期間において主にアルゼンチン・ペソおよび米ドルをはじめとする主要通貨に対し円高
となった影響です。

「販売数量/構成」は、16億円のマイナスとなりました。
北米建築用ガラス事業の域内商業用不動産市場向け製品およびアジアの太陽電池
パネル用ガラスの販売数量が減少しました。

「販売価格」は、132億円のプラスでした。
欧州の建築用ガラス事業における販売価格の上昇が主要な要因です。
また、北米においても原燃材料価格を反映して販売価格が上昇しました。
自動車用ガラス事業でも値上げによる効果が見られました。

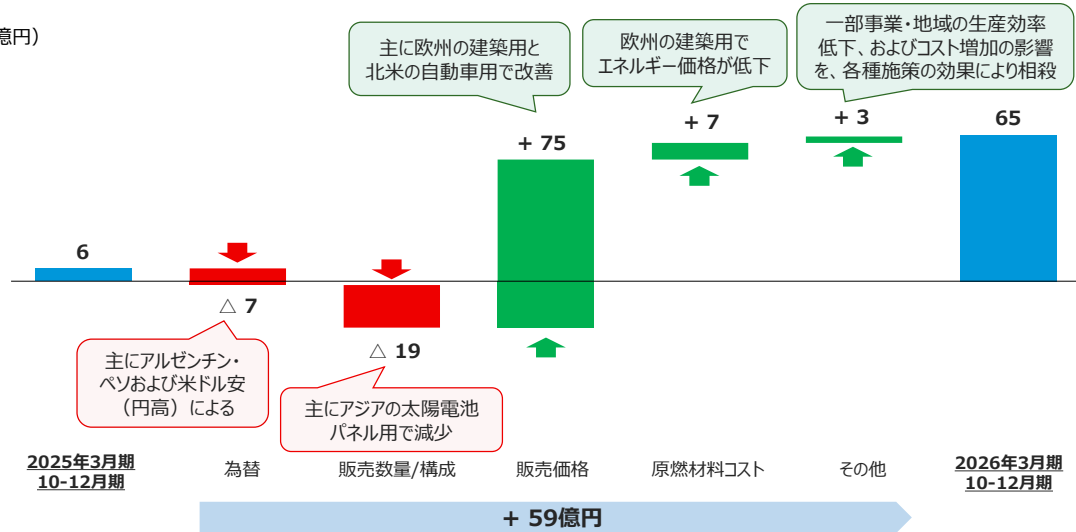
「原燃材料コスト」は、1億円のマイナスでした。
関税影響を受けた北米を含む一部地域で原燃材料価格が上昇しましたが、
その他の地域における原燃材料価格の低下で軽減されました。

「その他」は、21億円のマイナスとなりました。
リストラによる効果は出ていますが、
人件費を含むその他コストの増加や北米自動車用の生産効率低下、アジアの太陽
電池パネル用ガラスにおける資産稼働率低下の影響が大きく、マイナスとなっています。

営業利益差異分析 (10-12月期)

主に欧州の建築用ガラス事業および北米の自動車用ガラス事業で、販売価格が改善。
一部事業・地域の生産効率低下の影響は各種施策によるコスト改善効果により軽減

(億円)



2026年2月6日 | 2026年3月期 第3四半期決算報告

6

6ページは、第3四半期の営業利益差異分析についてです。
前年度第3四半期の営業利益6億円から当第3四半期の営業利益65億円へと59億円の増益となりましたが、その構成要素を示しています。

「為替」は、累計と同様に、7億円のマイナスでした。

「販売数量/構成」は、主にアジアの太陽電池パネル用ガラス事業において販売数量が減少したため、19億円のマイナスとなりました。

「販売価格」は、75億円のプラスでした。
主に欧州の建築用ガラス事業で販売価格が改善したことに加えて、北米の自動車用ガラス事業でも改善しました。

「原燃材料コスト」は、7億円のプラスとなりました。
主に欧州の建築用ガラス事業において、天然ガス価格が低下した恩恵を受けました。

「その他」は、3億円のプラスとなりました。
一部事業・地域の生産効率低下やコスト増加の影響を受けましたが、リストラを含めた各種コスト削減の効果が上回りました。

欧州ガラス価格の推移

ガラス製造業全体における需給状況の改善により、ガラス価格は上半期に上昇後
10-12月期は安定して推移

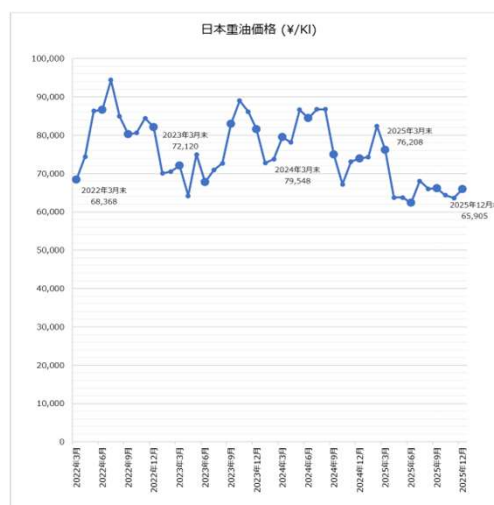
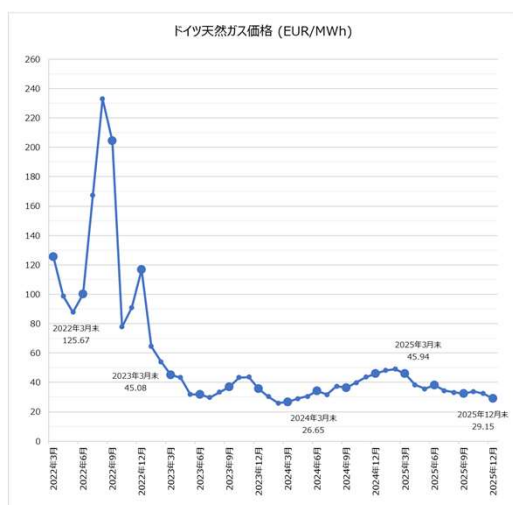


7ページはドイツのガラス価格の推移を示しています。

ガラス製造業全体における需給状況の改善により、ドイツのガラス価格は上半期に
上昇後、10-12月期は安定して推移しました。

エネルギー価格の推移

欧州天然ガス価格は徐々に低下傾向。
日本の重油は依然高値圏で推移



2026年2月6日 | 2026年3月期 第3四半期決算報告

8

続きまして、8ページでエネルギー価格の推移を示しています。

左側がドイツの天然ガスの市場価格の推移、
右側が日本の重油の市場価格の推移になります。

ドイツにおける天然ガスの価格は徐々に低下傾向にあります。
日本における重油価格は引き続き高値圏で推移しました。

連結貸借対照表



自己資本比率は11.6%と前期末より改善。

有利子負債は主に運転資本の季節的な変動と為替影響により増加

| (億円) | 2025年 3月末 | 2025年 12月末 | 増減 |
|-------------------|---------------|---------------|---------------|
| 資産合計 | 10,329 | 10,749 | 420 |
| 非流動資産 | 7,098 | 7,513 | 416 |
| 流動資産 | 3,232 | 3,236 | 4 |
| 負債合計 | 8,905 | 9,202 | 297 |
| 流動負債 | 4,094 | 4,516 | 422 |
| 非流動負債 | 4,811 | 4,686 | △ 125 |
| 資本合計 | 1,424 | 1,547 | 123 |
| 親会社の所有者に帰属する持分 | 1,081 | 1,243 | 163 |
| 自己資本比率 (%) | 10.5% | 11.6% | +1.1pt |
| 有利子負債 | 5,248 | 5,702 | 454 |

非流動資産

主に為替影響（円安）により、有形固定資産等が増加

流動負債

主に運転資本の季節的な変動と長期借入金からのシフトにより、短期借入金が増加

自己資本比率

11.6%と前期末比で改善。
主にその他の包括利益を通じて公正価値を測定する金融資産の純変動、為替影響およびアルゼンチンにおける超インフレ調整に伴う資産価値の増加による

有利子負債

主に運転資本の季節的な変動と為替影響により増加

2026年2月6日 | 2026年3月期 第3四半期決算報告

9

9ページは連結貸借対照表です。

2025年12月末時点の総資産は1兆749億円と
2025年3月末時点から420億円増加しました。

非流動資産は、主に円安の影響により、有形固定資産を中心に資産が増加した結果、
416億円増加しました。

流動負債は、運転資本の季節的な変動と長期借入金からのシフトにより短期借入金が
増加したため、422億円増加しました。

親会社の所有者に帰属する持分は、前期末から163億円増加し1,243億円でした。
これは主にその他の包括利益を通じて公正価値を測定する金融資産の純変動、
為替の影響およびアルゼンチンにおける超インフレ調整に伴う資産価値の増加によるものです。

この結果、自己資本比率は11.6%と前期末から1.1ポイントの改善となりました。

有利子負債は前期末比で454億円増加し、5,702億円となりました。
これは主に、運転資本の季節的な変動に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスと
為替の影響によるものです。

連結キャッシュ・フロー計算書



フリー・キャッシュ・フローは運転資本の季節的変動に伴いマイナスながら、前年同期比で改善。
引き続きフリー・キャッシュ・フローの改善により有利子負債の削減を目指す

| (億円) | 10-12月期 (3か月) | | | 4-12月期 累計 (9か月) | | | |
|------------------|---------------|--------------|------|-----------------|--------------|-------|---|
| | 2025年 3月期 | 2026年 3月期 | 差異 | 2025年 3月期 | 2026年 3月期 | 差異 | |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △ 30 | △ 22 | 8 | △ 68 | △ 46 | 22 | 営業活動によるキャッシュ・フロー 営業増益により前年同期比で改善 |
| （うち、運転資本の増減） | △ 28 | △ 117 | △ 89 | △ 194 | △ 338 | △ 144 | |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 148 | △ 105 | 43 | △ 396 | △ 276 | 120 | 投資活動によるキャッシュ・フロー 主にベトナムフロートグラス社の持分譲渡に伴う収入および有形固定資産の取得に伴う支出の減少により前年同期比で改善 |
| （うち、有形固定資産の取得） | △ 143 | △ 95 | 48 | △ 378 | △ 323 | 55 | |
| フリー・キャッシュ・フロー | △ 178 | △ 126 | 52 | △ 464 | △ 322 | 142 | フリー・キャッシュ・フロー 前年同期比で改善 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 188 | 126 | △ 63 | 499 | 97 | △ 402 | |
| 現金及び現金同等物の増減 | 10 | △ 1 | △ 11 | 35 | △ 225 | △ 260 | |
| 現金及び現金同等物 期末残高 | | | | 491 | 434 | △ 57 | |

2026年2月6日 | 2026年3月期 第3四半期決算報告

10

10ページは、連結キャッシュ・フロー計算書です。

営業活動によるキャッシュ・フローは、
当第3四半期3か月では22億円のマイナスでしたが、マイナス幅は前年同期対比で縮小しています。
累計においても、前年度のマイナス68億円から46億円のマイナスと改善しています。
運転資本は増加したものの、営業利益の回復が寄与した形となっています。

投資活動によるキャッシュ・フローは、
累計では276億円となり前年同期比120億円減少しました。
太陽電池パネル用ガラス事業等での戦略投資がかさんだ前年同期に比べ、有形固定資産の取得に伴う支出が減少したことに加え、ベトナムフロートグラス社の当社持分譲渡による収入があったことが要因となっています。

以上によりフリー・キャッシュ・フローは、
当第3四半期では126億円のマイナス、累計でも322億円のマイナスですが、
営業活動によるキャッシュ・フローおよび投資活動によるキャッシュ・フローの改善により、
前年同期比で改善しています。

引き続き、営業利益の改善と運転資本の削減に努め、フリー・キャッシュ・フローの改善に努めます。

セグメント情報



| (億円) | 2024年3月期 4-12月期 | | | 2025年3月期 4-12月期 | | | 2026年3月期 4-12月期 | | | 増減 | |
|------------------|-----------------|-------------|-------------|-----------------|-------------|-------------|-----------------|-------------|-------------|-------|------|
| | 売上高 | % | 営業利益 | 売上高 | % | 営業利益 | 売上高 | % | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 |
| 建築用ガラス事業 | 2,745 | 45% | 262 | 2,741 | 44% | 86 | 2,727 | 43% | 189 | △ 14 | 103 |
| 欧州 | 1,071 | 17% | | 944 | 15% | | 1,034 | 16% | | 90 | |
| アジア | 827 | 13% | | 908 | 14% | | 781 | 12% | | △ 127 | |
| 米州 | 847 | 14% | | 890 | 14% | | 913 | 14% | | 23 | |
| 自動車用ガラス事業 | 3,059 | 50% | 93 | 3,189 | 51% | 26 | 3,339 | 52% | 35 | 150 | 9 |
| 欧州 | 1,272 | 21% | | 1,297 | 21% | | 1,390 | 22% | | 93 | |
| アジア | 595 | 10% | | 613 | 10% | | 607 | 9% | | △ 6 | |
| 米州 | 1,192 | 19% | | 1,279 | 20% | | 1,342 | 21% | | 63 | |
| 高機能ガラス事業 | 296 | 5% | 57 | 362 | 6% | 57 | 330 | 5% | 47 | △ 32 | △ 10 |
| 欧州 | 76 | 1% | | 74 | 1% | | 82 | 1% | | 7 | |
| アジア | 207 | 3% | | 275 | 4% | | 237 | 4% | | △ 38 | |
| 米州 | 14 | 0% | | 12 | 0% | | 11 | 0% | | △ 2 | |
| その他 | 27 | 0% | △ 91 | 7 | 0% | △ 62 | 9 | 0% | △ 87 | 2 | △ 25 |
| 合計 | 6,127 | 100% | 321 | 6,300 | 100% | 108 | 6,406 | 100% | 185 | 106 | 77 |

2026年2月6日 | 2026年3月期 第3四半期決算報告

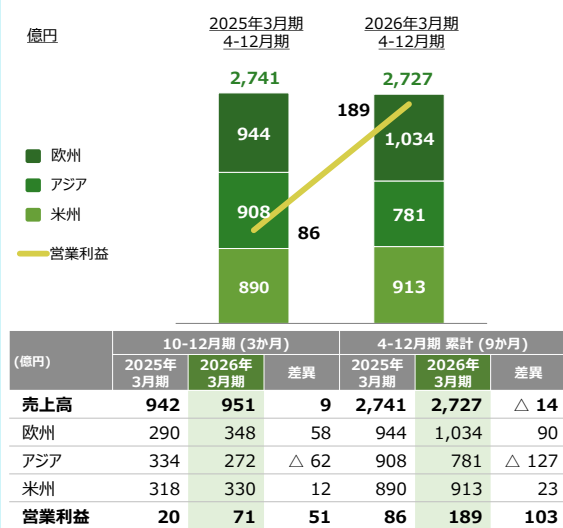
11

11ページは、事業セグメント毎に過去3か年度の累計の売上高および営業利益を示しています。
各事業の詳細については次ページ以降のスライドでご説明します。

建築用ガラス事業 (累計：減収・増益 10-12月期：増収・増益)



売上高は減少したが、営業利益は特に欧州において販売価格が改善したため、大幅に増加。
前年度に実施した生産停止に伴うコスト削減効果は引き続き寄与



欧州 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益)

- ドイツのフロート窯停止による需給バランスの改善に伴い、販売価格が前年度比で上昇し10-12月期も安定して推移
- 販売構成も改善
- フロート窯停止に伴うコスト改善が継続

アジア (累計：減収・減益 10-12月期：減収・減益)

- 日本では販売数量/構成が低下
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は、米国関税政策等を踏まえた取引先の生産調整の影響が続くが、改善傾向

米州 (累計：増収・減益 10-12月期：増収・増益)

- 北米は商業用不動産市場の需要軟化が継続するが、原燃材料費上昇分の価格転嫁により販売価格は改善
- 南米は主にアルゼンチンでの販売数量が増加
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調

12ページは、建築用ガラス事業です。

建築用ガラス事業は、売上高は前年同期から若干減少しましたが、営業利益は特に欧州において販売価格が改善したため大幅に増加しました。

欧州は、増収増益となりました。

需要の回復は想定より遅れているものの、

当社をはじめ業界各社でのフロート窯の停止により、需給バランスの改善が進み、

当社の販売価格も上半期に大きく上昇した後安定して推移しています。

資産稼働率の改善、固定費の削減によるコスト改善も継続しています。

アジアは、減収減益となりました。

日本では、新設住宅着工戸数が減少していることもあり販売数量/構成が低下しました。

太陽電池パネル用ガラスの需要は、取引先において米国関税政策などを踏まえた

生産調整が実施された影響により減少しましたが、第3四半期においては取引先の生産が好調な米国工場に輸出する需要が増加し、改善の傾向が見られました。

米州は、累計では増収減益、10-12月期では増収増益でした。

北米は、商業用不動産市場の需要軟化が続きましたが、

原燃材料価格の上昇分を転嫁することができたため販売価格が改善しました。

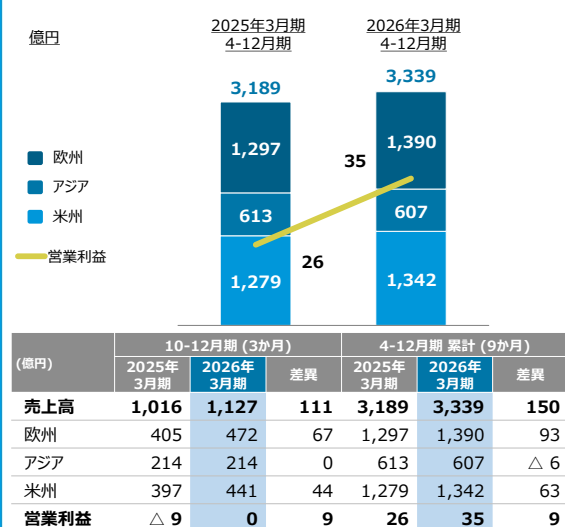
南米は、主にアルゼンチンでの販売数量が増加しました。

太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調です。

自動車用ガラス事業 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益) NSG GROUP

売上高および営業利益は前年同期から改善。

販売数量は減少したが、補修用を中心に販売価格の改善が進展



2026年2月6日 | 2026年3月期 第3四半期決算報告

欧州 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益)

アジア (累計：減収・減益 10-12月期：増収・減益)

米州 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益)

- 欧州の自動車販売台数は低水準だが、販売構成が改善
- 日本では新車用の販売数量および販売価格が伸び悩む
- 北米では補修用の販売価格が上昇、新車用の一時的な生産効率低下は継続。南米では販売数量が増加
- ドイツ工場、イタリア工場等欧州での生産体制見直しは計画通り進捗

13

13ページは自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業は、売上高および営業利益が前年同期比で増加しました。新車用で販売数量が減少した影響を受けた一方で、補修用ガラス事業を中心に販売価格の改善が進みました。

欧州では、自動車販売台数は低水準でしたが、付加価値製品の拡大に伴い販売構成が改善しました。

日本では、新車用ガラス事業では、販売数量が国内販売用自動車向けは増加しましたが、米国関税政策の影響を受けて輸出用自動車向けは減少しました。

北米では、新車用ガラス事業は一部の拠点での生産効率が低下した影響を受けていますが、補修用ガラス事業で、特に第1四半期に、米国関税政策に伴い競合他社との関税額の差が寄与し販売価格が上昇した効果がありました。南米では、販売数量が改善しました。

収益性改善のための施策として実施しています、ドイツ工場およびイタリア工場をはじめとした、主に欧州における生産体制の見直しも計画通り進捗しています。

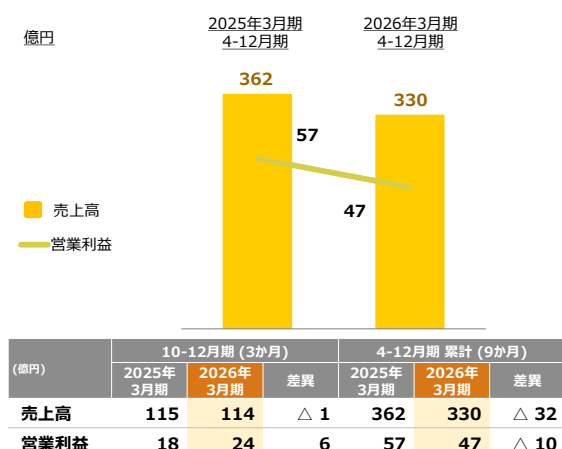
中長期的には自動車生産台数の緩やかな改善に伴う需要回復を見込んでおり、引き続き継続的なコスト削減努力や製品の高付加価値化とともに販売価格改善も進め、収益性改善に努めてまいります。

高機能ガラス事業 (累計：減収・減益 10-12月期：減収・増益)



累計売上高および営業利益は、一部製品の販売構成の影響を受け減少。

10-12月期は当初計画通り販売構成が改善し、増益



- ファインガラスは、当初計画通り10-12月期から販売構成が改善
- プリンター用レンズは、プリンター・複合機に対する需要減少の影響を受ける
- グラスコードは補修用市場での堅調な需要が継続
- メタシャイン® は自動車用塗装向けが減少

2026年2月6日 | 2026年3月期 第3四半期決算報告

14

続きまして14ページは高機能ガラス事業です。

10-12月期の売上高は前年同期と同水準で営業利益は増加しました。
累計の売上高および営業利益は、一部製品の販売時期の影響を受けたため減少していますが、当第3四半期においては、当初計画通り販売が改善したため営業利益は増加しています。

ファインガラスは、上半期においては一部製品の販売が下半期にずれ込んだ影響を受けましたが、当初計画の通り、10-12月期から販売構成が改善しました。

プリンター用レンズは、取引先で米国関税政策の動向を見極める動きもあり、プリンター・複合機に対する需要減少の影響を受けました。

グラスコードは、エンジン用タイミングベルトの補修用市場での強い需要が継続しました。

メタシャイン®は自動車塗装向けが減少しました。

2. 2026年3月期 業績予想

2026年3月期 業績予想



通期業績予想は変更なし。

達成はチャレンジングだが、利益改善のためのあらゆる施策をグループ横断で実施

| (億円) | 2026年3月期 上期実績 | 2026年3月期 4-12月期 累計実績 | 2026年3月期 通期予想 (変更なし) | 2025年3月期 通期実績 (参考) |
|-------------|------------------|----------------------------|----------------------------|--------------------------|
| 売上高 | 4,208 | 6,406 | 8,500 | 8,404 |
| 営業利益 | 120 | 185 | 310 | 165 |
| 個別開示項目 (純額) | △ 6 | △ 7 | 10 | △ 52 |
| 個別開示項目後営業利益 | 114 | 178 | 320 | 112 |
| 金融費用 (純額) | △ 135 | △ 210 | △ 270 | △ 253 |
| 持分法による投資利益 | 25 | 40 | 60 | 55 |
| 税引前利益 (△損失) | 4 | 8 | 110 | △ 85 |
| 当期利益 (△損失) | △ 34 | △ 41 | 40 | △ 135 |
| 純利益 (△損失)* | △ 42 | △ 51 | 20 | △ 138 |

2026年2月6日 | 2026年3月期 第3四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

16

続いて2026年3月期の業績予想です。

2026年3月期の通期業績予想は、
売上高は8,500億円、営業利益は310億円と当初の予想から変更しておりません。

米国関税政策による影響、今後の需要動向など、不透明な状況が続いており、
欧州の需要回復は当初想定よりスローダウンしていることなどから、
計画の達成はチャレンジングな状況ではありますが、
引き続き利益改善に向けて、グループ全体でのさらなるコスト削減等、
あらゆる施策に取り組んでまいります。

数値予想の前提は、次のスライドでご説明いたします。

2026年3月期 業績予想の前提

| | |
|---------|--|
| グループ | <p>欧州市場の緩やかな改善を見込むが想定より遅れ。他地域では米国関税政策による不確実性が残る。グループ全体でのさらなるコスト削減等、利益改善に向けてあらゆる施策を実施。</p> <p>繰延税金資産の見直しを検討中であり、第4四半期の税金費用が恩恵を受ける可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 主要通貨に対して当初見込みより円安の継続を見込む ● 一部事業・地域でエネルギー価格や原材料価格は上昇、インフレによる人件費等その他コスト増加も継続 |
| 建築用ガラス | <p>欧州市場の改善は想定より遅れるが、販売価格が安定して推移。太陽電池パネル用ガラスの需要は改善傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 欧州：フロート窯生産停止による安定的な販売価格とコスト削減が寄与 ● アジア：日本では建築需要の先行きに注意の一方で、販売価格改善を推進 ● 北米：不透明な経済見通しに伴い需要減少が継続する可能性。米国の関税政策を含む経済動向に注意 ● 南米：アルゼンチンで販売数量が改善。超インフレに伴うコスト上昇を販売価格への転嫁で吸収 ● 太陽電池パネル用ガラス：米国では堅調な需要が継続、アジアでは需要が改善傾向 |
| 自動車用ガラス | <p>コスト増加の影響が続くが、販売価格改善交渉を継続。</p> <p>米国関税政策による米国向け自動車生産に対する需要動向を注視</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 米国関税政策による米国向け自動車生産に対する需要動向を注視の一方、競合の製品に対して高い税率が適用されることで米国補修用市場において比較的優位を維持 ● 欧州での生産体制見直しに伴うコスト削減が寄与 ● 北米での一時的な生産効率低下は改善傾向 ● 引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善により収益性改善を目指す |
| 高機能ガラス | <p>多くの事業で需要は堅調に推移。コスト増加の影響を販売数量および販売価格の改善で吸収</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各事業で前年度に回復した需要が堅調に推移し、当初計画通りファインガラスで製品構成が改善 |

2026年2月6日

2026年3月期 第3四半期決算報告

17

スライド17に移ります。

グループ全体としては、

欧州の市場は緩やかに改善する見込みですが想定より遅れており、他の地域では米国関税政策による影響が業績に与える不確定要素が残っています。

引き続きグループ全体でのさらなるコスト削減や、利益改善に向けた取り組みを進めていきます。

また、繰延税金資産の見直しを検討中であり、第4四半期の税金費用において恩恵を受ける可能性があります。

主要通貨は、期初の見込みより円安である現時点での為替水準が継続することを想定しています。

一部事業・地域においてはエネルギー価格や原材料価格は上昇し、世界的なインフレ傾向の影響を受け人件費等その他のコストの増加も継続すると見えています。

特に足元では貴金属類の価格上昇は使用する部材によっては影響を受ける可能性があります。

米国関税政策については、その動向を注視しつつ

関税を含めたコスト増加に対して価格転嫁等の対応を実施する方針です。

引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善を継続し、業績改善に努めます。

事業別には簡単にコメントします。

建築用ガラス事業は、欧州市場の需要改善が想定よりスローダウンするとみえています。

日本、米州でも値上げを行っていますが、需要の回復は遅く、先行きに注意が必要と考えています。

太陽電池パネル用ガラスは、米国での需要は堅調と想定しています。なお、アジアにおいても米国工場への供給も出てきており改善傾向にあります。

自動車用ガラス事業では、
欧州および日本の新車用では、米国関税政策による米国輸出向け自動車生産への
影響が出ており、その需要動向に注視が必要です。
北米での生産効率の低下については引き続き改善に努力していきます。

高機能ガラス事業では、
ファインガラス事業で当初の想定通り製品構成の改善があり、
全体の収益に寄与する見込みです。

3. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」 財務目標の進捗状況

「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の進捗状況



欧州経済減速の影響を大きく受けた前年度からは回復しているものの、目標まではギャップ。
引き続き収益性の回復、キャッシュ・フローの改善に注力

| | | 2027年3月期 目標 | 2030年3月期 目標 | 2026年3月期（4-12月期） 実績 |
|---------------|---------------|----------------|----------------|--|
| 収益性（P/L） | 営業利益 | 640億円 | | 185億円：欧州建築用ガラス事業の改善により 前年同期比で増益 |
| | 営業利益率（ROS） | 7% | 10%以上 | 2.9%：前年同期比で1.2pt改善 |
| キャッシュ創出（C/F） | フリー・キャッシュ・フロー | 270億円 | | △322億円：運転資本の季節的な変動によりマイナス だが、前年同期比で改善 |
| 財務基盤の安定化（B/S） | 有利子負債 | 4,420億円 | | 5,702億円：前期末から454億円増加 |
| | 自己資本比率 | 15% | | 11.6%：前期末から1.1pt改善 |

2026年2月6日

2026年3月期 第3四半期決算報告

2030 Vision : Shift the Phase 説明資料

https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtp2030presentation_j02.pdf

19

19ページでは中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における財務目標の進捗状況についてご説明します。

2025年3月期から2030年3月期までの6年間を対象とする
中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」においては、
2027年3月期の財務目標として記載の5つの項目を掲げております。

まず、営業利益については、185億円となりました。
営業利益率は前年同期比で1.2ポイント改善し2.9%となっています。

フリー・キャッシュ・フローについては、運転資本の季節的な増加の影響を受け、
322億円のマイナスでしたが、年度末に向けてさらに改善していく見込みです。

有利子負債はフリー・キャッシュ・フローのマイナスにより5,702億円と
前期末の5,248億円から454億円増加しました。
自己資本比率は11.6%で、前期末から1.1ポイント改善しています。

欧州経済減速の影響を大きく受けた前年度からは回復しているものの、
目標まではギャップがある状況です。
今後も引き続き、グループ全体でのさらなるコスト削減等あらゆる施策を実施し、着実に収益
性とキャッシュ・フローの改善を図ってまいります。

4. まとめ

まとめ

1. 2026年3月期 第3四半期決算概要

- 欧州建築用ガラス事業の改善により、売上高および営業利益が大幅増加。
引き続き利益改善のためのあらゆる施策を推進
- 主に欧米の建築用ガラス事業および北米の自動車用ガラス事業で、販売価格が改善。
人件費等コスト増加の影響を欧州のフロート窯停止も含めたコスト改善により軽減
- 自己資本比率は11.6%と前期末より改善。
フリー・キャッシュ・フローは運転資本の季節的な変動によりマイナス。
有利子負債は主に運転資本の季節的な変動と為替影響により増加

2. 2026年3月期 業績予想

- 通期業績予想は変更なし。
達成はチャレンジングだが、利益改善のためのあらゆる施策をグループ横断で実施

3. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の進捗状況

- 欧州経済減速の影響を大きく受けた前年度からは回復しているものの、目標まではギャップ。
引き続き収益性の回復、キャッシュ・フローの改善に注力

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境および競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

補足資料



- 連結損益計算書 四半期別推移
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- セグメント情報
- 地域別売上高および営業利益
- 個別開示項目
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費

連結損益計算書 四半期別推移



| (億円) | 2024年 3月期 | | | | 2025年 3月期 | | | | 2026年 3月期 | | |
|--------------------------------|-----------|-------|---------|-------|-----------|-------|---------|-------|-----------|-------|---------|
| | 4-6月期 | 7-9月期 | 10-12月期 | 1-3月期 | 4-6月期 | 7-9月期 | 10-12月期 | 1-3月期 | 4-6月期 | 7-9月期 | 10-12月期 |
| 売上高 | 2,080 | 2,122 | 1,925 | 2,198 | 2,164 | 2,060 | 2,075 | 2,104 | 2,102 | 2,106 | 2,198 |
| 営業利益 | 146 | 115 | 61 | 38 | 48 | 55 | 6 | 57 | 69 | 51 | 65 |
| 営業利益率 | 7.0% | 5.4% | 3.2% | 1.7% | 2.2% | 2.7% | 0.3% | 2.7% | 3.3% | 2.4% | 3.0% |
| 個別開示項目 (その他) | △ 8 | 11 | 6 | △ 8 | 2 | △ 2 | △ 25 | △ 27 | 17 | △ 22 | △ 1 |
| 個別開示項目後営業利益 (△損失) | 138 | 125 | 67 | 29 | 49 | 53 | △ 19 | 30 | 85 | 29 | 64 |
| 金融費用 (純額) | △ 64 | △ 77 | △ 64 | △ 78 | △ 60 | △ 66 | △ 56 | △ 71 | △ 68 | △ 68 | △ 75 |
| 持分法適用会社に対する金融債権の減損損失の戻入益 (△損失) | 37 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 持分法による投資利益 | 10 | 12 | 15 | 14 | 11 | 14 | 12 | 18 | 13 | 16 | 15 |
| 持分法投資に関するその他の利益 (△損失) | 11 | △ 0 | △ 1 | △ 0 | - | - | - | - | △ 4 | △ 0 | △ 0 |
| 税引前利益 (△損失) | 133 | 61 | 17 | △ 35 | 0 | 1 | △ 64 | △ 23 | 27 | △ 23 | 4 |
| 当期利益 (△損失) | 75 | 30 | 36 | △ 32 | 27 | △ 61 | △ 59 | △ 42 | 5 | △ 38 | △ 7 |
| 純利益 (△損失)* | 70 | 27 | 37 | △ 29 | 24 | △ 63 | △ 62 | △ 38 | △ 2 | △ 41 | △ 9 |
| EBITDA | 253 | 226 | 170 | 168 | 175 | 175 | 130 | 177 | 198 | 183 | 201 |

2026年2月6日 | 2026年3月期 第3四半期決算報告

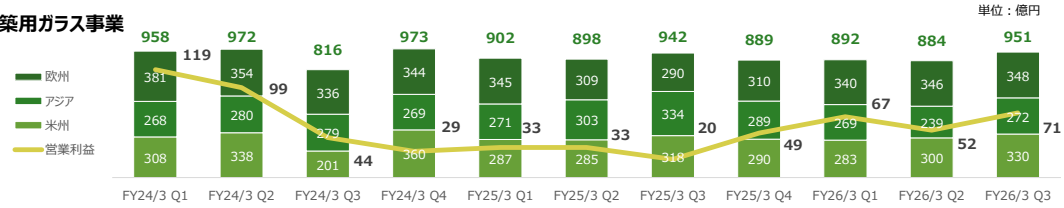
*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

24

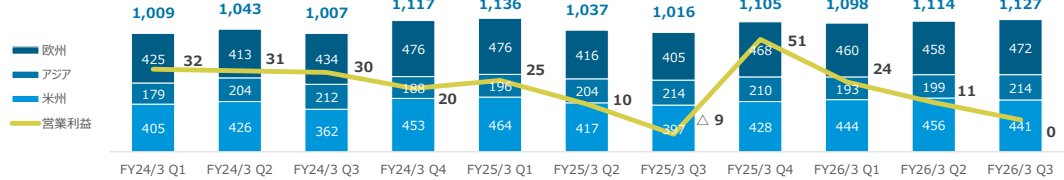
事業部門別・地域別売上高および営業利益 四半期別推移



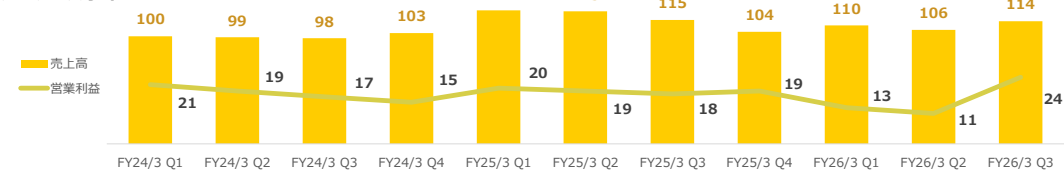
建築用ガラス事業



自動車用ガラス事業



高性能ガラス事業



セグメント情報



| (億円) | 2024年3月期 | | | | | 2025年3月期 | | | | | 2026年3月期 | | | |
|--------------|----------|-------|---------|-------|-------|----------|-------|---------|-------|-------|----------|-------|---------|-------|
| | 4-6月期 | 7-9月期 | 10-12月期 | 1-3月期 | 累計 | 4-6月期 | 7-9月期 | 10-12月期 | 1-3月期 | 累計 | 4-6月期 | 7-9月期 | 10-12月期 | 累計 |
| 売上高: 建築用ガラス | 958 | 972 | 816 | 973 | 3,718 | 902 | 898 | 942 | 889 | 3,630 | 892 | 884 | 951 | 2,727 |
| 欧州 | 381 | 354 | 336 | 344 | 1,415 | 345 | 309 | 290 | 310 | 1,254 | 340 | 346 | 348 | 1,034 |
| アジア | 268 | 280 | 279 | 269 | 1,096 | 271 | 303 | 334 | 289 | 1,197 | 269 | 239 | 272 | 781 |
| 米州 | 308 | 338 | 201 | 360 | 1,206 | 287 | 285 | 318 | 290 | 1,180 | 283 | 300 | 330 | 913 |
| 営業利益 | 119 | 99 | 44 | 29 | 291 | 33 | 33 | 20 | 49 | 136 | 67 | 52 | 71 | 189 |
| 売上高: 自動車用ガラス | 1,009 | 1,043 | 1,007 | 1,117 | 4,176 | 1,136 | 1,037 | 1,016 | 1,105 | 4,294 | 1,098 | 1,114 | 1,127 | 3,339 |
| 欧州 | 425 | 413 | 434 | 476 | 1,747 | 476 | 416 | 405 | 468 | 1,765 | 460 | 458 | 472 | 1,390 |
| アジア | 179 | 204 | 212 | 188 | 783 | 196 | 204 | 214 | 210 | 823 | 193 | 199 | 214 | 607 |
| 米州 | 405 | 426 | 362 | 453 | 1,645 | 464 | 417 | 397 | 428 | 1,707 | 444 | 456 | 441 | 1,342 |
| 営業利益 | 32 | 31 | 30 | 20 | 113 | 25 | 10 | △ 9 | 51 | 77 | 24 | 11 | 0 | 35 |
| 売上高: 高機能ガラス | 100 | 99 | 98 | 103 | 399 | 124 | 123 | 115 | 104 | 466 | 110 | 106 | 114 | 330 |
| 欧州 | 25 | 26 | 26 | 30 | 106 | 28 | 23 | 23 | 28 | 102 | 29 | 27 | 25 | 82 |
| アジア | 71 | 69 | 67 | 69 | 275 | 91 | 95 | 89 | 72 | 347 | 77 | 75 | 85 | 237 |
| 米州 | 4 | 5 | 5 | 4 | 18 | 5 | 5 | 3 | 4 | 17 | 4 | 4 | 3 | 11 |
| 営業利益 | 21 | 19 | 17 | 15 | 71 | 20 | 19 | 18 | 19 | 76 | 13 | 11 | 24 | 47 |
| 売上高: その他 | 13 | 8 | 5 | 6 | 33 | 2 | 2 | 3 | 6 | 13 | 1 | 2 | 7 | 9 |
| 営業利益 | △ 27 | △ 34 | △ 30 | △ 26 | △ 117 | △ 31 | △ 7 | △ 23 | △ 62 | △ 123 | △ 34 | △ 22 | △ 30 | △ 87 |
| 売上高: 合計 | 2,080 | 2,122 | 1,925 | 2,198 | 8,325 | 2,164 | 2,060 | 2,075 | 2,104 | 8,404 | 2,102 | 2,106 | 2,198 | 6,406 |
| 営業利益 | 146 | 115 | 61 | 38 | 359 | 48 | 55 | 6 | 57 | 165 | 69 | 51 | 65 | 185 |

2026年2月6日 | 2026年3月期 第3四半期決算報告

26

地域別売上高および営業利益



| (億円) | 2025年3月期 4-12月期 | | | 2026年3月期 4-12月期 | | | 増減 | |
|-------|-----------------|------|---------------|-----------------|------|---------------|-------|---------------|
| | 売上高 | % | 営業利益 (△損失) | 売上高 | % | 営業利益 (△損失) | 売上高 | 営業利益 (△損失) |
| 欧州 | 2,315 | 37% | △ 189 | 2,506 | 39% | △ 21 | 191 | 168 |
| アジア | 1,796 | 29% | 271 | 1,625 | 25% | 194 | △ 171 | △ 77 |
| 米州 | 2,181 | 35% | 88 | 2,265 | 35% | 99 | 84 | 11 |
| その他 * | 7 | 0% | △ 62 | 9 | 0% | △ 87 | 2 | △ 25 |
| 合計 | 6,300 | 100% | 108 | 6,406 | 100% | 185 | 106 | 77 |

* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

個別開示項目



| (億円) | 2025年3月期 4-12月期 | 2026年3月期 4-12月期 |
|--|--------------------|--------------------|
| 子会社および事業の売却による収益 | - | 18 |
| 非流動資産の減損損失の戻入益 | 0 | 1 |
| 係争案件の解決に係る収益（△費用）純額 | △ 1 | △ 1 |
| リストラチャリング費用 | △ 29 | △ 3 |
| その他包括利益計算書を通じて公正価値を測定する 金融資産の売却に伴うリサイクリング損失 | - | △ 22 |
| 非流動資産の売却による収益 | 3 | - |
| 引当金の戻入益 | 2 | - |
| 非流動資産の減損損失 | △ 1 | - |
| 棚卸資産の評価減 | △ 1 | - |
| その他 | △ 0 | - |
| 個別開示項目 純額 | △ 25 | △ 7 |

為替レート・為替感応度



期中平均レート

| | 2024年 3月期 | | | | 2025年 3月期 | | | | 2026年 3月期 | | | 2026年 3月期 |
|-----------|-------------------------|------|------|------|--------------|------|------|------|--------------|------|------|--------------|
| | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | Q1 | Q2 | Q3 | 見通し |
| 英ポンド | 172 | 177 | 179 | 182 | 197 | 195 | 195 | 194 | 193 | 196 | 199 | 197 |
| ユーロ | 150 | 153 | 154 | 157 | 168 | 165 | 164 | 163 | 164 | 168 | 172 | 170 |
| 米ドル | 138 | 140 | 143 | 144 | 156 | 152 | 152 | 152 | 145 | 146 | 149 | 148 |
| ブラジル・レアル | 27.7 | 28.6 | 29.0 | 29.4 | 29.9 | 28.3 | 27.5 | 27.1 | 25.5 | 26.3 | 27.0 | 26.4 |
| アルゼンチン・ペソ | 超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用 | | | | | | | | | | | |

期末レート

| | 2024年 3月期 | | | | 2025年 3月期 | | | | 2026年 3月期 | | |
|-----------|--------------|------|------|------|--------------|------|------|------|--------------|------|------|
| | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | Q1 | Q2 | Q3 |
| 英ポンド | 183 | 182 | 181 | 191 | 204 | 191 | 196 | 193 | 197 | 199 | 211 |
| ユーロ | 158 | 157 | 157 | 163 | 173 | 159 | 162 | 161 | 168 | 173 | 183 |
| 米ドル | 145 | 148 | 143 | 152 | 162 | 143 | 157 | 148 | 144 | 149 | 156 |
| ブラジル・レアル | 29.8 | 29.5 | 29.2 | 30.4 | 29.3 | 26.2 | 25.3 | 25.9 | 26.2 | 27.8 | 28.3 |
| アルゼンチン・ペソ | 0.57 | 0.42 | 0.18 | 0.18 | 0.18 | 0.15 | 0.15 | 0.14 | 0.12 | 0.11 | 0.11 |

為替感応度

他の前提に変動がない条件で、
為替レートが他の通貨に対して
1%変動した場合の影響額

| | 2025年 3月期 |
|------|--------------|
| 資本 | 37.0億円 |
| 当期利益 | 1.0億円 |

減価償却費・資本的支出・研究開発費

| (億円) | 2025年3月期 4-12月期 | 2026年3月期 4-12月期 | 2026年3月期 通期見通し |
|-----------|--------------------|--------------------|-------------------|
| 減価償却費 | 373 | 397 | 520 |
| 資本的支出 | 389 | 253 | 440 |
| 通常投資 | 199 | 192 | 260 |
| 戦略投資 | 190 | 61 | 180 |
| 研究開発費 | 79 | 81 | 115 |
| 建築用ガラス事業 | 29 | 28 | 40 |
| 自動車用ガラス事業 | 24 | 24 | 34 |
| 高機能ガラス事業 | 7 | 7 | 11 |
| その他 | 19 | 22 | 29 |

